

未来型農園における新しい農業経営手法

生津 賢也 （いくつ けんや）株式会社 SUN ファーム 代表取締役社長

要約 アグリテックの進展により、農業経営には生産性・収益性を上げ長期の利回りを考える視点がより不可欠になってきている折、近年更に注目を集めているのが食とエネルギーのビジネスを融合させることで安定した農業経営を実現する「ソーラーシェアリング」といえよう。世界的な経済恐慌、食の危機が叫ばれ始めている中で、「農業経営が向かうべき未来像」、そして「ソーラーシェアリングが果たす役割」とは一体何なのかについて、自身の経験や実績に基づいた数値を交えながら持論を展開しようと思う。

1. 経営再建ビジネスから農業へ

先ず簡単に自己紹介させて頂くと、私は過去長い期間にわたって海外を中心に企業再建ビジネスに携わっており、金融・メーカー・商社・IT・メディア業界といった農業とは異なる分野で20年以上過ごしてきたのだが、子どものころ帰省先で慣れ親しんできた自然のイメージが心に残っており、異なるフィールドで生きていることにわだかまりのようなものを感じていた。

2017年に日本へと帰ってきた私は、原点に立ち返り以前から興味を抱いていた農業分野への挑戦を開始するのだが、そこでソーラーシェアリングの存在を知り、農業とエネルギーの組み合わせに大きな可能性を感じた次第である。

早いものでこの世界に身を投じて足掛け6年になるが、ここへきて国内外の企業・行政・農業従事者からの問い合わせ数が増加傾向にある中、次のステージへ向けてのビジョンが明確になりつつある状況となっている。

2. ソーラーシェアリングとは

ソーラーシェアリングとは、農地の上に太陽光パネルを設置して作物へ降り注ぐ日差しを調整し、適切な太陽光で作物を育てながら、太陽光発電でクリーンエネルギーを得るという仕組みである。

農業を営むうえで太陽光はなくてはならない存在だが、すべての作物が100%の太陽光を必要とするわけではない。ソーラーシェアリングを導入すれば、作物

の育成に不要な分の太陽光から生み出した電力をFITやPPAを活用して売却、農地の電力として利用することも可能であり、適切な日差しで作物を育てられるため収穫量も安定するなど一石二鳥のメリットをもたらすことになる。

2.1 主体はあくまでも農業

ソーラーシェアリングにおける主役は当然農業であり、農地の上を立体的に活用して作物は勿論のこと、併せてクリーンエネルギーを生み出すというコンセプトである。

野立てメガソーラーのように電力を生み出す為だけの目的で土地を占有し、100%太陽光発電に使うのではなく、あくまでも農地を有効活用することで農業経営を安定化するための仕組みとして作用させることが肝となる。

2.2 ソーラーシェアリングの醍醐味

ソーラーシェアリングを導入することで得られるメリットについてだが、地上から高さ2m～3mのところに適度にパネルが存在することで；

- ・土壌乾燥防止、作物葉焼け実割れ防止
- ・炎天下での作業が楽
- ・防風・鳥獣ネット設置に支柱が役立つ
- ・冬野菜を霜から救う
- ・エネルギーと食両方の自給自足が可能

といった効果が得られる訳だが、中でも災害時に地域の電力インフラやロジスティクス網が崩壊した際にはエネルギーのみならず食料の供給源にも為り得ることが一番の大義名分といえるだろう。